

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様がその人らしくいきいきと生活できるよう独自の理念があり、職員は常にその理念を頭におきサービスを提供している。	開設時に理事長と管理者とで検討し理念を作成しました。ホームの玄関や職員用トイレ、事務室など事業所内の目に付く所に掲示をする他、忘年会時に全員で理念を復唱するなどして職員に理念を浸透させています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物は近所のスーパーを利用しており米、牛乳、味噌は地域の方から購入している。また前山小学校の生徒との交流の機会も作れてあり積極的に受け入れている。	事業所の前にある小学校の運動会に見学に出かけたり、文化祭にはご利用者の作品も出展しました。小学生がホームに来てくれてダンスや紙芝居を披露してくれたり、傾聴ボランティアの受け入れも行う等、地域との交流を行っています。	ご利用者と一緒に町内行事も参加する機会を検討し、これまで以上に地域との交流が図られることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方と挨拶を交わしてはいるが、地域に対しての啓蒙活動等は行っていない。今後ホームの行事などに参加してもらえるよう声掛けを行い、ホームの理解に繋げていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回定期的に実施しており利用者の現状、サービスへの取り組み状況などをホームから報告し参加者から意見や要望を頂きサービス向上に活かしている。	地域住民や市の担当者、他法人の理事長や特別養護老人ホーム施設長、小学校の教頭先生やご家族に参加していただき、運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催しており、事業所からの報告に加え、参加者から寄せられた意見や要望をもとにサービスの向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は市町村に運営推進会議録を提出したり、入居者の状況を報告したり、担当者と連絡調整を行っている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております、事業所の状況の報告を行うなどして、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみに行っている。身体拘束に関してユニット会議等で話し合いを行っているが、内部研修を行っておらず今後研修を実施し、全職員が理解して、拘束しないケアを行っていきたい。	ホームとして身体拘束は行わない方針のもと、玄関の施錠についても夜間のみとしており、日頃の職員の言葉遣いについても管理者が指導を行う等、拘束しないケアが徹底されています。	身体拘束に関する職員の理解度を深めるためにも、事業所内で定期的に研修を実施されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修が行えておらず全職員に理解されているとは言えない。しかし日頃から管理者や職員同士で注意し合っており全職員で虐待防止に努めている。	日常の中で、声掛け等が精神的な虐待になっていないか職員相互に注意を払い、少しでも気になる場面があれば、検討するようにされています。	虐待防止に関する職員の理解度を深めるためにも、事業所内で定期的に研修を実施されることを期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して内部研修を行なっておらず全職員に理解されていると言えない。今後研修の機会を設け権利擁護に関して理解を深める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様に内容を十分納得して頂ける様時間をかけて説明している。質問や疑問点があればその都度話し合いご理解頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に運営推進会議への参加をお願いしており、頂いたご意見は可能な限り意向に沿えるよう努めている。また、日頃から面会時などに意見要望をお聞きしている。	日々の面会時、2ヶ月に1度の運営推進会議、半年に1度のサービス担当者会議などの機会に、ご家族からの意見や要望を確認し、サービスの質の向上に繋げられるように努めています。	ご家族からの率直な意見が吸い上げられるように意見箱の設置を検討するほか、ご家族会を定期的に開催し、意見交換がより行われることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、リーダー会議、管理者会議において全職員は様々な事項について意見を出し合い話し合っている。また、常日頃から代表者、管理者は職員の言葉に耳を傾け運営に反映させている。	毎月のユニット会議、リーダー会議にて職員との意見交換の場を設けているほか、職員との個人面談の機会も設け、日頃の業務の中でも意見や提案を確認するようにしており、その内容を運営に反映できるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人が取得している資格等を給与に反映させ、個人に合わせた就業形態や給与形態などやりがいをもてる環境作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や実績に基づき適切な研修に参加できるよう機会を確保して、スキルアップを図れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者との交流の機会は設けられていない。今後、職員の交換研修などを行い業務の向上に努めたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と関わる時間を多く持ち会話を重ね、不安な事は何か何を求めているのかを探り受けとめ安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込み時点から、不安に思っている事、困っている事、何を求めているのかをお聞きしご家族の気持ちを受けとめ共感する事で良い関係作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状況をお聞きし現状を把握している。その上でケアマネと相談し必要に応じた最も良いケアが行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、生活していく中で好きな事や得意な事を見つけられるように努めている。得意な事を続けて頂くことにより習慣的な仕事が出来、共同生活の中で役割を見つけて行けるようにしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お手紙でご様子を報告している。また面会時にはゆっくりお話しができる場を設け職員も加わり日頃のご様子等をお知らせするなどご家族と一緒に支援していく関係を築いている。	事業所広報を作成し送付しているほか、担当者が毎月お手紙を作成し送り、ご家族と情報を共有できるようにしています。また、面会時などは話を伺い、半年に1度のサービス担当者会議にはご家族にも参加していただけるようにし、協力関係を構築しています。	開設時から事業所広報のご家族への送付がまだ1回のみとなっていますが、定期的に送付しご家族へもホームでの活動の状況が共有されるように検討されることを期待します。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族から話を伺い馴染みのある場所へお連れしている。また、受診や散髪等は今まで利用されていた所を継続している。知人や友人の面会など関係性が継続できるよう努めている。	昔の教え子や、親族、友人に面会に来て頂いたり、ご家族の協力を得て自宅への外泊やなじみの美容室、結婚式にも参加するなど、馴染みの関係を継続できるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し、仲の良い方にはその関係を維持できるよう努めている。また、交流が難しい方には職員が共に過ごす時間を設け安心感を持って生活できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要な際にはご利用者及びそのご家族の相談を受け支援を行っている。現段階では相談された事はないが、今後あればできる限りの対応をしたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やコミュニケーションを大切にそこから一人ひとりの意向や思いを汲み取るよう努めている。また、困難な場合にはご家族からの意見も取り入れている。	日常のやりとりでご利用者から頂いた要望についてはできるだけすぐに対応するようにしています。また、日々の生活の中で確認したご利用者の意向や面会の際などにご家族から聞いたことは生活記録に記入し、職員間で情報を共有し、ご利用者の支援ができるようにしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や情報をご本人、ご家族からお聞きしている。入居後もご本人、ご家族から新しい情報を集め記録に残し全職員で把握に努めている。	暮らしの情報シートを活用し、契約時にご家族にも生まれてからの環境やよく行った場所等を記入してもらい、個々のご利用者のこれまでの暮らしの情報を整理しています。	日々のご利用者とのやりとりの中で確認した新たな情報についても定期的に更新するようにされることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤したらまず記録を読みお一人おひとりの過ごされた様子、心身状態の確認、新しい情報などを確認している。また、職員間の口頭での申し送りも大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画を立てる際のカンファレンスには出来る限りご家族に参加して頂き現状をお伝えし、ご意向を伺っている。ご本人の思いも会話の中から引き出しその人らしい生活を送れるよう計画書に反映させている。	介護計画の実施状況を日々の生活記録にも記入するほか、計画作成者と担当者の毎月のモニタリングにより介護計画の達成状況を確認しています。また、半年に1度のサービス担当者会議にはご家族にも参加して頂き、介護計画に関する意見や要望を伺うようにし、介護計画に反映させるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービスの実施状況、評価を毎日、生活記録に記入している。また、ご本人の言葉、職員自身の気づき、今後の対応についての考えも細かく記入している。そしてモニタリングやサービスの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診はご家族にお願いしているが急変時やご家族の都合のつかない時はこちらで対応している。理美容やリネンに関してもご家族が対応できない時はホームで対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方やホーム前の小学校の児童がホームで踊りや歌を披露してくれたり交流の機会が作れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ病院、医院等に受診して頂いている。受診の際、必要に応じご本人のご様子や相談事を記載した手紙を用意しその都度的確なご指示等を頂いている。	ご家族の受診支援を基本とし、ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医にて受診してもらい、必要時には事業所からもご利用者の状態を文書にまとめ、付き添うご家族を介して医師との情報交換が行われています。また、緊急で受診が必要な場合は職員が受診支援を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	チェック表に看護師の確認欄があり介護職員との連絡に活用している。気になる事があれば都度口頭でも相談行い入居者への支援に繋げている。また、年間を通じて看護師から内部研修を行ってもらい業務に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は必ずホームでの様子など情報提供している。また、管理者が入院中の様子をお聞きし、医師・ご家族様と今後の相談をしながら、早期の退院に向けて連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にホームとしての方針、ホームとしてできることを説明し、同意を得ている。又、状態に応じて、重度化に関する相談をし、必要に応じて特養の申し込みや他のサービスの利用へとつなげている。	契約時にグループホームとしてできることをご説明し、同意を得ており、医療的な支援が必要な場合は特養や病院に移っていただいています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の内部研修を予定している。又、急変時マニュアルを準備して、いつでも見れる様にしている。今後も色々な対応方法を内部研修で行っていきたい。	事業所でも急変時マニュアルを用意し、緊急時対応の研修を行い職員が適切な初期対応ができるようにしています。	心肺蘇生やAEDの使用研修なども行い、より適切な初期対応ができるように検討されることを期待します。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の立会いにて避難訓練実施している。防災マニュアル、連絡網を作成している。地域との協力体制の構築にはまだ至っておらず、今後地域への理解して頂ける様な働き掛けが必要である	事業所では年に2回、日中の火災を想定した避難訓練を行っていますが地域の方の参加は無く、今年度は夜間の火災や地震を想定した避難訓練は行われませんでした。	避難訓練には地域の方へも参加をお願いするほか、夜間の火災や地震を想定した避難訓練も行う等、適切に避難できる体制を整えられることを期待します。また、災害時用の非常用食品や水の確保も行われることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った声掛けや言葉遣いをする事で、プライバシーや尊厳を損なわないようにしている。又、職員同士お互いに注意しあい、意識するようにしている。	契約時にプライバシーの取り組みに関する説明をし同意を頂いているほか、事業所広報への写真の掲載についても確認がとられています。また、現場でご利用者に対する職員の言葉遣いにも気が付いたらすぐに指導するなどの対応も行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望やその他を自己決定できるよう、声掛けにも工夫している。会話や表情・仕草からも思いを汲み取り、できる限り要望に応えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様お一人おひとりのペースに合わせお好きなように過ごして頂いている。希望に沿うことが出来ない時は話し合い、納得して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着慣れた衣服や好みの衣服で季節にあったおしゃれを楽しんで頂いている。入浴時や起床時には本人から服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材が味わえるよう献立を工夫したり、入居者様の希望を聞きながらメニューを考えている。又、盛り付け・配膳・茶わん洗いなど、その方に応じた家事と一緒にさせて頂いている。	週に1度、希望献立の日を設け、ご利用者の希望を聞く機会を作ることで、ご利用者の希望に添えるよう配慮されています。また、食事の準備、後片付けも職員と一緒に進められています。事業所の畑で野菜の収穫と一緒に楽しんだり、ファミリーレストランへの外出やホットケーキ作りなどの機会も設け、食事を楽しんでいただけるように努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の必要品目の栄養バランスを目標に献立を立てている。食事をどのくらい摂取したか個別に記録し、水分も必要に応じてチェックシートを活用し摂って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けし口腔ケアを行っている。見守りが必要な方・介助が必要な方は職員が対応し介助している。又、週に2回義歯を薬品で消毒する日を設け、清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めており、個別に必要なに応じてトイレ誘導を行っている。	排泄パターンの把握するまでは排泄チェックを行い、オムツの使用を減らせるような取り組みや、日中は出来る限り布パンツを使用させて頂くようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の見られない日数を職員間で把握しており、自然排便がみられる様おやつに寒天の日を設けている。それでも便秘が続く方にはかかりつけ医と相談し下剤を処方して頂き服用している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2～3回程度又本人の希望時に入浴して頂いている。入浴時は職員と会話しながらリラックスできるよう時間も余裕をもって関わっている。	基本的には週に2～3回の入浴を基本としており、入浴時は職員との会話を多く持つことを意識し、ゆず湯なども季節に合わせて行い入浴を楽しんでいただいています。	調査時点で入浴を嫌がるご利用者について、ケース記録に記入が無いところもありましたので、職員間で記録の方法について検討されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて臥床時間を設けたり、ソファや畳などで休息して頂いている。居室の温度・湿度にも気を配り安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服の内容を把握した上で取り扱っている。変更や追加があればその都度職員間で把握してから服薬のお手伝いをしている。服薬後の変化を見逃さず、かかりつけ医や調剤薬局と連携をとり対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、その方が得意とする事をお願いしたり、お好きな事をして頂く場を提供し、楽しく生活して頂けるよう支援している。又、買い物やボランティアの訪問などで気分転換して頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日希望に沿った外出は行えていないが、希望のあるときはできるだけ職員が同行し、出掛けられるようにしている。又日々の買い物に同行して頂いたり、外出・外食の機会を設けている。ご家族と外食や外泊に出掛けられている。	ご利用者と一緒に日々の買い物に出かけたり、季節に合わせてお花見やポタン園、ぶどう狩りや紅葉狩り、神社への初詣などにも出掛け、ご利用者に外出を楽しんでもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお小遣いはその方の能力に応じて本人管理したり、事務所の金庫で管理させて頂いており、希望に応じてお好きな物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時は職員がお繋ぎしている。又、年賀状作成時、可能な方は本人からも一言書いて送らせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾係が中心となり季節に合った飾り付けを行っている。入居者の写真や作品などを飾るなど入居者様が楽しんで頂けるように配慮している。	リビングは季節を感じられる様に雑祭りの飾りを付けたり、畳コーナーにはテーブルやソファが置かれ、新聞を読んだり、自由に過ごして頂くようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係を見極め食席を検討している。又、気の合う方とリビング内でお好きなように過ごして頂いている。しかし入居者様同士でトラブルに至る事があるため、両者の過ごされる場所・距離を置くなど配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みの物を置いて頂くようお願いしており、居室でも安心して過ごして頂けるよう配慮している。	使い慣れたタンスやソファ、テーブルなどの家具や愛着のある品物を持ち込んでもらえるよう推奨し、ご利用者が居心地良く、安心して過ごせる居室になるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	敷地内・建物内全てがバリアフリーで手すりもあるので、お一人でもホーム内を行き来できる様になっている。しかし加齢と認知症の進行から常に見守りが必要な方が増えており、安全な中で自立した生活が送れるよう支援している。		